

<p>(原文)</p>	<p>つきひはくたいの過客にして、行き交ふ年もまた旅人なり。舟の上に生涯を浮かべ、馬の</p>	<p>口とらへて老いを迎ふる者は、日々旅にして</p>	<p>旅をすみかとする。古人も多く旅に死せるあり。</p>	<p>予もいづれの年よりか、片雲の風に誘はれて、</p>	<p>漂泊の思ひやまず、海浜にさすらへて、去年</p>	<p>の秋、江上の破屋にくもの古巢を払ひて、</p>	<p>やや年も暮れ、春立てるかすみの空に、白河</p>	<p>の関越えむと、そぞろ神の物につきて心を狂</p>	<p>はせ、道祖神の招きにあひて、取るもの手に</p>	<p>つかず。もも引きの破れをつづり、笠の緒付</p>	<p>け替へて、三里に灸据ゆるより、松島の月ま</p>	<p>づ心にかかりて、住めるかたは人に譲りて、</p>	<p>杉風が別墅に移るに、</p>	<p>草の戸も住み替はる代ぞひなの家</p>	<p>面八句を庵の柱に懸け置く。</p>

・半ページの真ん中に線を引くこと！

・行間は最低二行空けておいてください！

・p.118～119までの原文を全て写すこと！

・歴史的仮名遣いは現代仮名遣いに直して単語の隣に記入すること！

・入りきらなかったら次のページから続きを書いてください。